

二〇一一年度

群馬県立女子大学 文学部 総合教養学科 転入学及び編入学試験問題

専門科目

試験時間は、九十分です。中途退室は認めません。途中で気分が悪くなつた場合は、黙つて手を上げてください。

問題用紙は一枚です。他に下書き用の白紙が二枚入っています。
解答用紙は一枚あります。それぞれが配られたら、指示に従つて解答用紙の所定の欄に受験番号、氏名を記入してください。
試験開始の合図があるまで表紙をめくつて問題を見てはいけません。

解答用紙の所定の欄に受験番号、氏名を記入し終えたら、静かに試験の開始を待つてください。

以下の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

【問い合わせ】

マンガの流通の特徴とその功罪を整理したうえで、ストーリーマンガをめぐる「成長」について論じなさい（1000字以内）。

優れたストーリーマンガの与える感動の一つは、その展開の中に、作品自身の、そして作者自身の成長の軌跡を読み取り得るという点にある。

製作、創作とは、単なる構想の実行、心像の現実化などではない。「小説とは生き物だ」という使い古された、しかし当を得た警句が示すごとく、およそ文芸作品というものは、最初に明確な設計図があつて、それにしたがつて具体的に書き上げられていくというものでは必ずしもない。初発のモチーフやテーマはあくまでも起爆剤に過ぎず、作品全体をそれが支配し通すとは限らない。コンピュータープログラムのバグは実際にそのプログラムを走らせてみなければ分からぬように、初期の構想は実際に書き始めてみるとあちこちでその不十分さを露呈したり、逆に思いもかけない展開の可能性を明らかにしたりする。もちろんこれは狭義の文芸に限つたことではなく、科学を含めた思想的探究一般においても同様である。思想は表現を通じて初めて具体化し、具体化することを通じて内的にも深化する。それどころか本当はものづくり一般、製作、産業という営みすべてにおいて上の事情は多少ともあてはまるということは、技術史をひもといてみるならば一目瞭然である。

それゆえ作品、生産物自体の中に、製作主体、作者の力能の成長過程の痕跡を見付けることができるということは、文芸作品やフィクションの領域に限つてみたところでごくありふれた現象である。しかしながら日本のストーリーマンガというジャンルにおいては、とりわけこの現象が際立つた形で現われるのである。

それは今日の日本におけるマンガの流通の仕方によって大きく規定された事態である。ほとんどのマンガの第一次的な発表媒体はマンガ専門雑誌であり、しかも短編は言わば

変則的なものであって、主流は長編の連載である。一話完結のシリーズという体裁をとることも多いが、数話から数十話に渡って一つのストーリーを追求し、連載全体を通して一つの作品世界を造り上げていくのがその基本型である。そして第二次的な媒体である単行本の刊行も通常、連載全体が完結してからではなく、連載済の分量が単行本一冊分に達したらその分だけを順次刊行していく、という形をとる。それゆえ他の文芸作品に比べると、未完成ままに発表されることが常態となっている。

無論、雑誌等定期刊行物への連載、という形式は小説にとつてもありふれたものである。しかし今日の小説の場合、よほどの大河小説でないかぎり連載完結後改めて加筆修正をしたうえで、全体を一挙に決定版として刊行するのが通例である。この点マンガとは大いに異なる。

マンガの流通をめぐるこうした状況はもちろん、よいことづくめなどではまったくない。それは一面では、てまひまを掛け、伏線を注意深く張った作品が飽きっぽい読者によつて受け入れられず、不人気のまま本来のテーマに到達する前に打ち切られて不自然な終りを迎える機を逸して、宙ぶらりんのまま不自然に長く生き延びてしまう作品を生んでしまつたりする。だが今日、秀作と呼び得るストーリーマンガの多くはこうした隘路あいろを潜り抜けた作品、人気が出て長く続けることが可能となつたがゆえに、ゆっくりと作品世界を構築していくことが可能となつた作品、つまりそれ自体成長していくことのできた作品、作者自身が成長を遂げていき、それ自体の中にこの成長の成果がフィードバックされていった作品である。あるいはそれを「テクスト」と呼んでもかまわない。

マンガ『ナウシカ』は上の事情の恩恵を最大限受けた作品である。掲載誌がアニメーション情報誌であつたため厳しい競争圧力を受けて打ち切られることもなく（つまり上記の事情のマイナス面を回避することができ）、未完成の途上で刊行された単行本の良好な売れ行きによって出版社の、そして何より読者の関心を繋ぎ止めることに成功し、長い連載の途上でゆっくりと考え、テーマを深化させていくことが可能となつた。

